

**首都高速道路構造物の大規模更新のあり方に関する調査研究  
第1回委員会 議事要旨**

日時：平成24年3月5日（月）17:00～19:00

場所：イイノホール&カンファレンスセンター Room A1

出席：委員長 涌井 史郎（東京都市大学環境情報学部 教授）  
委員 秋池 玲子（ボストンコンサルティンググループ パートナー&マネージング・  
ディレクター）  
石田 東生（筑波大学大学院システム情報工学科 教授）  
勢山 廣直（（独）日本高速道路保有・債務返済機構 理事長）  
藤野 陽三（東京大学大学院工学系研究科 教授）  
前川 宏一（東京大学大学院工学系研究科 教授）  
三木 千壽（東京工業大学大学院理工学研究科 教授）

（真下 英人（（独）土木研究所道路技術研究グループ グループ長）は所用のため欠席）

議事：

1. 委員会設立趣旨
2. 検討内容
3. 委員会スケジュール
4. 首都高速道路の役割と必要性
5. 首都高速道路の課題と取り組み
6. 首都高速道路の課題と「大規模更新」の着目点

（主な意見）

- ・ 技術的な観点でいえば、決して高齢化したから劣化をしたのではなく、過酷な使用状況による劣化がかなり大きいため、「高齢化」という用語が適切か検討すべきである。
- ・ 非常時（地震時等）ではなく、定常時に首都高速が利用されていく中で、どこにどのような安全上の問題があるか、それをどのように点検をしていくのかという技術的な課題がある。
- ・ 将来の更新などへの対応については、国土交通省の「高速道路のあり方検討有識者会議」で

も議論があった。本委員会の議論でも参考になると思われる。

- ・首都高速が当初建設された40年前と今では社会状況が違っているように、将来も今の状況とは異なっていることが予想される。大規模更新を実施する場合には、50年後なのか、100年後をみるのか、ターゲットを定める必要がある。
- ・首都高速という組織が自ら検討できる範囲と、自らが主体的に検討出来ない範囲がある。
- ・首都高速道路は、東京の国際的地位向上に寄与しているのは間違いなく、どう更新するかは、将来の東京の姿と密接に関係すると思われる。

以 上